

第3回白石町学校統合再編審議会会議録（要約）

日 時：令和元年6月27日（木）14：00～18：00

場 所：白石町内小中学校、白石町役場3階大会議室

出席者

◆審議会委員20名

◆事務局

○町内小中学校視察

六角小学校 14時15分～14時45分

↓

福富小学校 15時00分～15時30分

↓

福富中学校 15時35分～16時05分

↓

有明中学校 16時20分～16時50分

○学校施設視察を終えて（役場3階大会議室）

1 開会

2 会長挨拶

進 行：松尾会長にご挨拶をいただきます。お願いします。

会 長：皆さん方大変お疲れ様でした。それぞれじっくり見ていただいたものと思います。そういった中で、皆さん方それぞれ感じられることがあったというふうに思います。この考え等をこれからの審議の中でいろいろと活かしていただいて意見を述べていただきたいと思います。今日は、ほんとお疲れ様でございました。ありがとうございました。

3 前回会議録の確認

進 行：それでは、次第3。前回会議録の確認をさせていただきたいと思う。前回の会議録を皆さまにお配りしていたが、なにか誤りとか不適切な部分等があったか。

（特になし）

進 行：それでは、この会議録をもって、公開とさせていただきます。

4 議事

進行:ここの進行は松尾会長様にお願いする。

議長:それでは、わたくしが議事進行ということで務めさせていただきます。ご協力をよろしくお願いする。今日は、先ほど視察をいたしましたので、学校視察を終えてということで、皆さん方のそれぞれの意見を交換したいと思う。どなたでも結構ですが、今日視察をしてみたの感想等何か述べていただければと思う。誰か我こそはという方いらっしゃらないか。

委員 A:六角小学校を最初に回らせていただいた。男女比の偏りに注目してと思ったが、もともと児童数が少なかった。児童数がもっと増えたら、この男女の偏りというのは解消するのではないかなと思う。ですので、もう少し児童数を増やすようなところが必要ではないかなと思う。ですから増やすような範囲にするのか、区割りを設定するのか、そういったことを検討しなければいけないのかなと思う。男女比はそういったことから解消できるのではないかなと思ったところである。

議長:はい、ありがとうございます。他に何かないか。なければ、皆さんそれぞれ見ていただいたので一言ずつ感想を言っていただくことにしたいと思います。よろしくお願いする。

委員 B:当然のことながら築年数によつての校舎の傷み具合というのはあると思うが、新しい校舎と古い校舎を使っている生徒の格差というのが、やっぱりあるのかなというのは思った。しょうがないことではあるのだが。

委員 C:わたしも同様に、やっぱり同じ町内の中学校なので環境というのも考えてあげなければいけないのかな。やっぱり早急に統合というのを考えなければと思った。

委員 D:今回見させていただいたが、今ある現状の学校を再編に向けて使うか使わないかという議論まで今後していけないといけないと思っているが、資料にもあるように、築何年というところで、もうかなりの築年数が経っているので、現在の施設を使うにしても、体育館だけを使うとか、校舎だけを使うとか、今後どういった使用をしていくのかということに疑問がある。築年数からして今後使えないのではないかなとも感じた。

委員 E:今日は4校視察をさせていただいたが、それぞれの学校の事情の中で、先生方もかなり知恵を絞って、やっているのが感じられた。また、他の学校を視察していないが、現状はさほど変わらないのではないかな。やはり、限られた中でやっているというのが目に見えるなと思った。これを打開していくにはどうしたらいいのかというのが、やはり統合問題においては一番になってくるのではないかなと感じている。

- 委員 F: わたしも似たような意見だが、福富中は老朽化が激しかった。雨漏りやひびについては、柱にも外壁の方にもあったので、補強もしてあったが、各学校での管理は大変だと感じた。
- 委員 G: 今日見た中で、雨漏りとか体育館の床について、合併に向かって走っていく中で、各小中学校がどこまでの修理改善をするのか、まず第一は子供たちの安全というところで、100%直すのか80%直すのか、というところは疑問に思った。
- 委員 H: 施設については、皆さんと同じことを思った。特に福富小学校と有明中学校で感じたことを述べると、福富小学校は古いが、広さがあるということで、十分な特別支援学級他、まなび・ことば教室の部屋が確保できているということで、施設の充実を感じた。これからの教育の動きとして、合理的配慮の要るお子さんを受け入れていくということを考えたら、こういった部屋を確保できるというのはすごくいいなと思った。最後の有明中学校は20年も前に建てられているということだったが、構内の見取り図を見ても、よく考えて造ってあるなと感心した。これからわたくしたちが話し合う中でも白石町の将来のことを考えて、20年後30年後のことを、よくよく考えて話し合っていかなければいけないなと感じた。身が引き締まる思いがした。
- 委員 I: 今日視察させていただき、一番感じたのは老朽化である。有明中学校を最後に見たが、いろんな部屋があって、福富中学校にはないようなクラスもあったりした。子どもの為を考えると、いろんな部屋があった方がいいだろうと思う。ただそれを全部整えることは、今からでは難しいと思うので、そういう面では統合する話に繋がってくるのだと思う。福富に関しては小中一緒に見せてもらったが、2校とも老朽化していた。今小学校のプールを一緒に使ってるという話があったが、そうやって近くのところは、一緒に使ったり、全部補修するわけではなく、いろんなところを見て、どこが使えるか使えないか、そこらへんをきちんとはつきりしてから考えてもいいかなと思った。
- 委員 J: 校舎のことに関しては、皆さんが言われていたので言うことはないが、老朽化しているのを直していくというのは大事だが、統合が決まった時に、どこまで直すのかというのも、今から考えていかなければいけないと思った。
- 委員 A: 施設の面は、皆さんが言われたようなところだろうと思う。最少の児童数のところと、1学級に多数の児童がいるところを見せていただいた。やはり少ないと物寂しい面もあるし、多すぎると教育として行き届くのかなというところを考えた。福富小学校の2クラスあるところの30人ちょっとくらいの学級というのが、子どもたちにとっては一番いい環境なのかなと思った。そう思うと、今の校区、学校区の考え方を飛び越えないと、それは実現できないのかなと思った。もしかするとそこまで議論に入らないと最終的に結論付かないのかなと感じ、最終

的に重たいなというふうに思ったところである。今後の話だろうとは思いますが、そういう面を考えた。

- 委員 K: 学校を見せていただいたが、今の学校はもともとの町と町が合併をする前の校舎の設立ということで、なかなか一様でないのは感じた。でも学校の子供たちを見ていると、それぞれの学校の特徴があって、頑張っているなというのを感じた。校舎がどうであろうと、子どもたち自身はその学校が自分たちの学校だと思っているので、どの学校を見てもいい環境であるなと思った。ただ、校舎によって違う。上から横から眺めていると、有明中は建設時からいい学校づくりをしてあるなというのをつくづく感じた。それと、子どもたちの人数の格差というのは、児童数が多くなると解消できると思うので、早くそういうことにも目を向けていくようにしてあげないといけないなというのは強く感じた。
- 委員 L: 皆さんとだいたい同じような意見である。ただ生徒数の問題、施設の老朽化というようなことで見ているが、各論に入ったら、かなりいろんな意見で難しい問題が出てくるのではないかとつくづく思った。
- 委員 M: 学校の立場として、それぞれの施設はかなり頻繁に訪れているが、そういう目で見ると、普段何気なく訪れるとでは違うなと実感を持った。子供たちは、古いからと言って学校が嫌いだとか、そういう考えは持ってないと思う。ただ、比べてみたときに、子どもたちの教育の機会均等とか、条件が違うのはいかかなものかなとは思った。そして、一番感じたのは有明中学校の部活の様子である。高校生がバスケットを教えに来ていたが、男子バスケット部が中学校にないということだった。たったこの人数で、スポーツをやっているのかという実感がした。中学生では特に切磋琢磨していく中では、やはり適正規模の学級数そして部活の規模が必要ではないかと強く思った。
- 委員 N: 日頃から教育活動に関わる中で、やはり学校現場は子どもたちが教え合い、高めあい、学び合う、そういう活動があって大きな成長が期待できると思う。今日は六角小学校の子どもたちも少ない人数で活動していた。子供たちが、最近すごくおとなしくて問題行動も少ない中で、すべての小中学校がやっていけるということは、ありがたいことなのだが、それは落ち着いているということだけであって、エネルギーというという意味では逆にそれがなくなっているのではないかと考えている。そう考えたときに、子どもたちの活動のためにはやっぱり、学校統合再編をスピードアップして対応することが大事ではないかなと今日改めて感じた。
- 委員 O: 本日、各学校を視察させてもらったが、ここに書いてある以外にも、それぞれの学校で問題点がいろいろあるのではないかと考えた。やはり先ほども言われたように、教育の機会均等あるいは設備の老朽化等を早急に対応していかないと、子どもたちの教育上やはり問題だろうと感じる。

委員 P:わたしは、六角小学校のプールの状態とか、福富中学校の体育館とか、中学生が小学校のプールを使用することで、学校往復の時間があるため授業時間がかかり削られ、正味20分～25分の授業だというところが気になった。あと体育館老朽化の問題でも、修理が必要なために、十分な教育活動ができていないのではないかと感じた。今日小中学校を見せてもらったが、統合再編するためには学校の位置というのはかなり重要になってくるのではないだろうか。それに伴って学級数を適正に、クラス編成とかも一緒に同時進行で考えて行かないといけないのではないかと感じた。

委員 Q:だいたい重なるところが多いが、まず六角小学校に行って、子どもたちの人数、授業の様子を見て少人数だから手は行き届くかもしれないが、子どもたちにとって、この人数で生活をしていくのはどうかなということは疑問に思った。それから福富に行き、校舎の老朽化、修理のことも出ていたが、どこまでしたらいいのか。今いる子どもたちにとっては、今が大事。だから、先に統合するにしても、やっぱり今はきちんと修理をしていかなければいけないと思った。3つ目は有明中学校に行って、よく考えられた校舎であり、今から校舎を考えていくのであれば、先のことまで考えた上での議論をしていかなければいけないと思った。

委員 R:古い校舎、新しい校舎の違いはあったが、生徒たちがそれぞれ、与えられた環境で、本当に健気に頑張っているなという思いがした。そういったことでは、早く環境を整えてあげないといけないと思った。例えばこの学校は古いからここには統合されないとか、この学校は新しいからここに統合しようとか、そういうことではない。これは町当局がかなりの覚悟をしてもらわないといけないということになるが、老朽化している、古いということで、そこを統合の拠点にしないこと、そういった考えは抜いて、とにかく新しい環境を作ってやるということで、再編の方を考えていかないといけない。先ほどちょっと重いという話があったが、なかなか難しい問題になるという感想を持った。

議長:それでは、皆さん方意見をいただきありがとうございました。もう少し時間があるが、やはりこんな風にしないといけないとか、これからの進め方等何か提案があればお願いしたいと思う。

今日視察して、どこからしていこうかといろんな意見が出て、例えば早く小学校をしないといけないとか、小中学校並行してしないといけないとか、思われたことを言うただけであれば、これから進める上で助かると思う。何か意見があればお聞きしたいと思う。

委員 G:中学校は白石町に1つ、小学校も1つにするという方向性でよいのか。それとも小学校は各地域に1つずつなのか。

- 議 長:それを今から話していこうというところ。例えば、それを原案にして、たたき台にしていくという方法もあるが、これから進めなければいけないのは、小学校をある程度膨らませば男女比なんかは解消するのではないかという意見もあったので、白石町に1つというのではなくて、やっぱり今小学校8校あるので、これをいくりにまとめ上げるのかというようなことを考えて行かないといけないと思う。今のところは、何校にするかというところはこれから進めて行くところ。
- 委員 G:まずその方向性が見えなければ、どこから手をつけたらいいのかわからないので。
- 議 長:ありがとうございます。わかりました。他に何かないか。
- 委員 N:数をいくつくらいとか、どこどこが一緒がいいというのを、わたしたちの意見を出してこの審議会で決定して行くべきなのか、事務局から何か案が出て来るのか、そこをお互い様子見をしているような気がする。ぼんぼん意見を言うこの会であっていいのかなと思うが。その辺の確認。
- 議 長:そうですね。やっぱり事務局が、たたき台を出してくれると一番やりやすいと思うのだが。事務局はたたき台を出さないといけないと思う。どうですか？
- 事務局:こないだ、ご意見を頂きましたので、いくつか案を言ってもらえば、それに基づいてのある程度の資料、例えば仮に1中、1小とおっしゃいましたが、そういう形がひとつのパターンであれば、どれくらいの生徒数で、これくらいのクラスになりますよ、通学距離がこうなります、というような話の資料を作ることはできる。ただ、いくつかパターンを作り、それを見ながらあーでもない、こーでもないという必要があるとは思っている。
- 事務局:そこを次回、ご提案する。前回の結果を踏まえて、事務局で検討しているので、次回ご相談というか示させていただきたいと思う。
- 委員 E:提案するのでしょうか？そこは大事なところなので。その提案がなかったら、みんなパターンを考えなければいけない。そこはきちんと線を引いておかないといけない。
- 事務局:その進め方も含めて、次回お話をさせていただこうと思っている。
- 事務局:第4回でパターンを出すかどうかはわからないところではあるが、学級数とかも国の基準があり、手順を追って、適正規模を決めていただく。白石町の基準を決めていく上でのデータをお示しして、協議をしてもらいたい。適正規模が決まれば、必然と学校数が決まってくるので。そこでパターンは、これだけありますよと提示する予定。第4回ですべてを出すということではないとは思いますが、そこはしっかり手順を踏ませていただきたいと思っている。
- 委員 E:そうではなくて…。手順、適正のとは言ってますが、そうだったら出てから後手後手になってしまう。そうなるのでパターンを出してくれればいいのかと思っている。最初からパターンが出なければ、ここでどうしようかという話になり

大変なので、パターンを作ってくれ、出してくれということを前回から話していたと思う。

事務局:進め方の話を次回します。

委員 H: 前回箱根町の視察の資料が付いていたが、箱根町では協議会が平成7年にできていて、実際には助走期間がある程度あった中で、2年間でぐっと結論が出たという話だったと思うが、白石町でも複式学級ができればという話が出ていた、というお話だけその時は発表されたが、将来的には統廃合しないといけないかもねという意見が出てから今日までのいろんな話し合いがされていたのであれば、その間にどういうことが話し合われて、どういう案が出てきているのかというのをわたしは知りたい。そういう資料を作ってはいらないか。

事務局:今の箱根町の件については、わたしも同行させていただいた。学校に関する議論があったというのは、わたくしども白石町に置き換えますと、箱根町の数年間では一旦ある程度の方針を出してある。それが、話し合いをしている期間である。そして実行されたところがある。それから言うと、まだ白石町の状態は、平成29年度で教育委員会の方が、きちっとした議論を始めている状態なので、まだ29年度からという状態。だから箱根町の7、8年という部分で言ったらこれは、白石町は頭の2、3年という状態。

委員 H: いつぐらいまでに話が終わるのかと突然ふられたが、まだスタート時点でしかないということを考えたら、長く時間が掛かるのは当たり前で、12月までとか今年度中というのは、とても無理な話ではないかと思う。この会でわたしたちは、何をどこまで話せばいいのか、この会でたたき台など案をまとめた後に、その案はどういう扱いを受けるかというのは全くわからない。それがそのまま議会に行き、承認を受ければ決定案として住民説明、もうなりましたよというような扱いを受けるのか、それとも、あくまでもアイデアとしてこの場に出てきたものを、住民の方の意見を交えながら、覆ることもあるような工程をたどるのか、そこらへんもわからない。何をどう言ったらよいかわからないのが現実です。

事務局:そのへんのところ、どういう手順を踏んでいくのかというのは次回ご説明をしようと思っている。

委員 L: 実は、7、8年くらい前に議会としては、統合を早くしないか！というようなことは実際質問をしていて、その時の答えが複式学級になるまではしない、というものであった。なので、それで行くのかと思っていたところ、29年に教育委員会も統合の方に歩き出しますという話になった。ですから、議会の一般質問で言っていたのは、7年くらい前になる。というのは、父兄さんから、部活動も十分にできないから統合する方向を提案してくれというようなことで、わたくしたちも議会でご発言しておりました。だから以前に全然話があつてないということではな

い。ある程度早く結論を出さないといけない。町民の方はほとんど自分たちなりに話し合いはしていると思う。統合するののかしないののかは、会長の判断だと思うが。

議 長: わたしは、子どもたちの教育環境は早めに良くしてやらなければ、オーバーに言えば1日でも早く、そういったつもりでこの会を進めて行きたいと思っている。なので2年にまとめてと言われれば、1年でまとめようかなと、そんなスピード感を持って、皆さん方と議論をしていかななくてはいけないかなと思っている。だから、バラっと意見ばかり言うのではなく、やっぱりたたき台というのが必要である。国の基準に適合するような案で、事務局の方から2つか3つかケースで出してもらおう。それが人口の加減で、白石バージョンにしないといけないということであれば、また議論しなければいけないと思う。おっしゃる通りあまり長く時間を掛けるのはよくないと思う。子どもたちの教育環境を良くしようと、わたしたち大人が用意してやらないといけない。子どもたち自身は、今日の六角小学校の少人数の男女比の違い等も、別にこんなものだろうということで、与えられた環境で学んでいるもの。だから人数が増えたらもっと楽しいんだよというようなことを与えてあげないといけないということで、できるだけ早く議論を進めて行きたいと思う。

委員 A: そうなると、次回事務局として整理して出されるというのは、前回皆さんの意見をある程度お聞きした結果をとりまとめて、早くするのか、どうするのか、実際言うところの中でも、統合するのかそのままいくのかというふうな方向性も出てないので、その方向性から決めていくよという手順をきちんとお示して、こういう手順でいきたいと思うところをまず決めてもらって、その段取りに基づいて、協議して行きましょうという案を出すということか？最初から1、2とか、そういう案だと最初の入り口の統合やるのかどうかすら決まってないので、まずはそういったところから決めて、順序立てて行きましょうねと。諮問書の中では、適正な児童数とかその辺が諮問されていたので、その諮問に答えるのがこの審議会なのかなとわたしは思っているの、それに対してここでまとめたもので、このくらいの規模で、適正な児童数というのが見えてくるとそうなるだろうし、どれくらいの学校数というのも見えてくるだろうし、それがいけないよといえばそれが、全く方向性が決まってないのでその事務局案をまず出しますよということで、認識してよろしいでしょうか。それが決まらないと統合するののかしないのかというのもここでまだ決まってないので、事務局も案として出しにくいのかなというふうにわたしは思っているが。

議 長: あのですね、わたしの考え方は、ここで審議するのは統合再編すること前提で議論を進めていくこと。

委員 A: その統合再編のやり方も、箱物で考えるやり方と、先ほどから言っている適正な児童数をこれくらい、学級数をこれくらいというようなやり方で進めるのかによってまた動き方が違うと思う。

議長 長: まず、今言われたように再編するのかどうかを決めてないということではなく、もう決まっているという前提でこの会議はある。だからこそ諮問を受けているわけだ。

委員 A: 第1回目の会議の時に、どなたかの委員さんが、統合をするというのは決まっているという議論で進めるのか？統合しないという案もあり得るのか？というのを聞かれたと思う。その時、そういう案もあり得ますというような答弁があったと思う。そしたらやっぱりそこをまず決めて進んだ方がいいのではないか。そういうのを順序立てて、こういう風な流れで決めて行きましょうね、これくらいのスパンでというようなものが、まず全く見えてないから、皆さん何を議論して、どう決めて、結論をどう持っていくのかがわからないのではないかと思います。そこをまず決めた方がいいのではないかと思います。

議長 長: 事務局どうですか。

事務局 長: あの件は、わたくしが、選択肢を広くとっているということでお話したと思う。それ自体は誤解を与えたというご発言をいただいているが、そこは申し訳ない。ただ一応、こちらの方で、こないだアンケートをさせていただいた皆さんのご意見は、統合というのが大多数であったので、そこも次回確認させていただこうと思っている。その確認をまずさせていただいて、こういう形で話したいということしていきたいと思っている。第1回目はセレモニー的で、2回目は皆さんのご意見をお聞きしたところで、3回目は現地視察、4回目はそこを確認していただければと思っている。

議長 長: 今日の視察の時に皆さん、そんな観点で見えてきたかということですよ。統合再編するなら、どんな形がいいのかな、というようなことを頭に入れながら視察をしていただいたと思う。だから今更、統合再編するかしないか、方向を決めなければいけないという段階ではないと思う。わたしは、そのつもりで会議を進めてきたつもりだ。そこで原点に戻られれば、ちょっと会長辞めると言わなければいけないようになる。

委員 A: その結論が次回に出てくるということですよ？皆さんの意見として前回いろいろと出てきているので、これがまとまったかたちで、そういう風に行きましょうというふうなところですよ？

議長 長: 基本は出発点、第1回からきちんとしておかなければいけなかったのだ。そうしないとこの会議を進められない。観点は、どこから観点にするのかということ。わたしの心づもりは再編する？しない？で1回も2回も3回も進めてきたつもりではない。2回目に聞かれたアンケートでも、みんな統合しないといけな

いという必要性を持って、いろんな意見を述べられているわけだから。だからあのアンケートで、態度を決めて行くという話なら、また何を言ってるの？とわたしとしては言いたい。あれはあくまでも、目的をきちんと言ってもらえばまた皆さんの答え方も違ったのだと思うが。アンケートをするためには目的があるわけなので、目的をきちんと言ってアンケートをしないといけなかったと思う。何も言わないで、アンケートを取ったからこうでした、ということでは駄目。誰でもアンケートは真剣に考えるので、グループ討議でアンケートをとった結果はこうと今更言われては、わたしとしても事務局は何を考えているのかなと言いたい。だからわたしは、最初から、諮問を受けた時から、統合再編していかなければいけないと思っていた。だから皆さんが委員としてお集まりいただいとこのようにわたしは理解していた。

委員 A: アンケートの結果は、あの場でだいたい発表されたので、統合再編というのは基本路線だとは思っているのだが、ただそれをまとめてもらったものが、今回も出てないので、そういうのが出てくればそうだよ、というふうなところで、そっちの方に進めるだろうと思っていた。それが次回出れば、そういう方向でという話でどんどん進むだろうと思っている。

委員 D: 今後、統合再編に向けて、じゃあしましよというたたき台が出てくるとして、一連のスケジュールを見せてもらわないと、何回会議を重ねるといいのにもなりかねないので、ある程度先を見越して、1つずつスピーディーにクリアしていかないといけない。1年で終わるのか2年で終わるのか、3年掛ったよとなるのではないか。そこのところは、次回先を見据えたたたき台を出してもらわなければ、何のために来たかなというような会議になってしまうのではないか。

事務局: 手順をお示しすると言ったのは、そこのところで、3月までというような意見が多かったので、3月までにこういうスケジュールで行きますよ、何を考えますよという手順を次回お話をすることで、ご理解いただきたいと思う。

議長: ここに諮問書がある。読めば、統合再編を元にした諮問である。だからこれを今から、統合再編するかしないかというような意見はすでに、この会議が招集された段階では、あり得ないこと。我々は、それで諮問を受けているわけなので。

委員 A: それについて反論しているわけでもなんでもなくて、第1回目の中でそういうふうに委員が聞かれたことに対して、今まで通りでもあり得ますという返答があったからだ。その確認が取れてないので、再編しますよということで進むんだということを言ってもらえば、それでいい。ただ前回のディスカッションの中には、これまで通りみたいな案も入っていたので、じゃどうなのかなというのが見えなかったのでお尋ねしているところだ。それをきちんと次回、こういう再編で、こういうスケジュールでというのを事務局から出していただければ、もうそれで、

何ら問題ない。今まで通り行かないといけないということを全く推しているわけでもなんでもなく、ただ、前回第1回のときにそういうのがあったので、じゃあここで、まだ決まっていませんよねということで、でも諮問は統合ありきなんだよということであればそれで進んでもらったらいいと思う。

議 長：事務局、その辺の態度をしっかりとってくれないといけない。みんなするしないで議論を進めているわけではないわけだから。諮問もそんな形で、もらっているわけだから。だからわたしは、ああいう返答があった時に、困ったなあと思った。皆さんの頭の中にはしっかりと抜かっているのだから。こここのところは事務局できちんとしてもらわないといけないと思う。

委 員 A：ですから、次回これだと、統合再編で行くんだと、行くにあたってのスケジュールはこれで、こういう順番でいくんだということで出してもらえばそれでいいのではないかと思う。

委 員 O：この審議会はオープンにしていいということだったですよ。わたしたちは、区長会代表でもあるが、今こういう審議会があつて、まだ何もはっきりしていないという風なことを、言っておられる。そうすると区長会の区長は、各地域に今度はそういう情報を流す。混乱した意見が出てきてしまう。ゴールは決まっているなかで、ハードルがあるということではないのですか。だからそういうのもはっきりとするならする、しないならしないということで話を進めて行かないと、審議会終わったが何も返事がなかった、出来レースではないかということになりはしないかなと思う。

教 育 長：この会の方向性ということで、少し揺らぎが出てきているが、先ほど会長さんがお示しいただいた諮問の内容、それから最初の会でわたくしが下手な挨拶をさせていただいた内容はいくらか記憶に残っておられるでしょうか。その中で、本町の小中学校の教育の抱えるいろんな問題をまとめて申し上げたつもりです。現状いろんな問題があるので、このままではだめだということで統合再編という形で進めましょうとそういうことについていろいろご意見をくださいと。ただ先ほどから出ていますようにいろんな考え方、教育についてもいろんな思いがあられますし、いろいろ言われるとまとまるものもまとまりませんので、やっぱり子どもたちの教育の行政として責任あるポストとして、任されていますので、その責任においてひとつのたたき台を出していただいて、それについてご意見を伺うような進め方に今後できればと思っているところです。それを最初からどんどん出すと、なんかすべて行政主導のようになりますので。行政も頑張らなくてはいいけないですが、教育というのは、街づくりの一環なんですね。だからいろんな考え方の人が、いろんな見地からお考えをいただいて、進んで行くというようなことを思っているわけです。議論の根拠となるたたき台を今後示させていただきたいと考えてます。

委員 L:この問題は、教育長の腹を決めてもらわないとできないと思う。箱根町で聞いたのは、2つの意見があった。一度にするか、中学校を先にして、小学校を後にするか。その教育長が言われたのは、片方を先にしたら、先にした方の意見が出て来て、できなくなる。とにかくもう、両方一緒にしようと。皆さんの意見を聞くことはできはしない。ある程度リーダーシップを持って、町民のほとんどの方が統合しないといけないという思いの方が多いと思う。ですから、あと事務局と教育長が、データ、指針を出してもらってこちらで検討するというふうな方向でやってもらえたらと思う。

議長:時間もずいぶん経ちました。他に何かありませんか。なければ事務局お願いします。

事務局:それでは会長さん、進行ありがとうございました。お叱りをいただきましてありがとうございます。

5 連絡事項

進行:(1)第4回審議会開催日について

事務局:失礼致します。第4回審議会の開催日につきましては、前回の第2回の時に決めさせていただいている。確認ですが7月18日(木曜日)19時からこの会議室で行う。1週間前には開催通知とまた資料等をお送りさせていただく。内容としては、先ほどいろいろご意見をいただいているが、今後の審議会のスケジュール(案)、答申をいただいてからのその答申がどのように活かされて行くか等の案、そして開校スケジュール、その辺までの案をまずは示して行きたいと思っている。また、会長も諮問のことを言われたが、諮問に対する審議の方法、どのような形で審議して、どのような形で出させていただくのか、その辺のデータ等、資料案等をこの会から出させていただきたいと思っている。出席のほどよろしく願います。

6 閉会